



みどりの風



令和6年12月23日発行

何事も凡事徹底を心がけたい

校長 安藤晋哉

今年もあと一週間あまりで終了し、新しい年2025年（令和7年）が始まります。どのような一年になるか期待が高まるとともに、素晴らしい一年になってほしいと願うところです。

さて、今年度、私たち教職員は生徒たちとのかかわりにあたり「凡事徹底・一事徹底」を大切にしたいと考えてきました。

凡事徹底とは、「何でもないような当たり前のことを徹底的に行うこと」です。学校生活における当たり前のこととは何かと考えますと、「時間を守り、活動する。」「提出物は確実に出す。」「挨拶は友達、先生を問わずしっかり交わす。」「返事は正しくきちんとする。」「机や棚は整理整頓する。」などです。これらはほんの数例ですが、この当たり前の確実な積み重ねが、物事に真摯に向き合う素地を培い、自分を高めていくことにつながると考えます。

本校では「凡事徹底」の中で特に「時間を守る」を「一事徹底」として、取り組んできています。具体的には、生徒会主体となり、ノーチャイムデーを実施し、時間に対する意識を高めたり、朝の登校時間を守るように確認し合ったり、授業開始1分前には教室で待機したりというものです。

しかし、「三日坊主」という言葉もあるように、物事を徹底して続けるということはなかなか難しいことです。「少しぐらい手を抜いてもいいや。」「今回はできなくても仕方がない。」「みんなもできていないし…。」など、いろいろな言い訳が邪魔をして、自己の成長の機会、可能性を奪うことも多々あります。

私たち教職員も凡事徹底を心にとめ、「当たり前のことを当たり前に、徹底して行うこと」の大切さを生徒たちに確実に理解してもらうために、自らが範となるよう授業開始前の入室や授業づくり、生徒理解等に努力を積み重ね、その上で生徒たちに対し粘り強い指導を続けていきたいと思えます。元大リーガーのイチロー選手の言葉に次のようなものがあります。

『特別なことをするために特別なことをするのはない。特別なことをするために普段どおりの当たり前のことをする。』

各ご家庭でも「我が家における当たり前とは何か」を話題にさせていただけますと幸いです。

SOSの出し方教育に関する講話

11月29日（金）にSOSの出し方教育を行いました。

講師には鹿児島大学から假屋園昭彦先生をお招きして、講話をしていただきました。学習の目的は



「命や暮らしの危機に直面した時の対処方法やつらいときや苦しいときに助けを求めてもよいこと等を学ぶ」ことです。講話の中で假屋園先生から周囲の大人に相談したり、助けを求めることは、決して恥ずかしいことではない、困った時のSOSの出し方、自分の良さを見つける方法など、不安や悩み、ストレスを多く抱える思春期の生徒たちに、充実して生活するヒントを与えていただけた講話になりました。

